

4. 計画の評価検証と推進体制

評価指標と目標値

本計画の評価指標及びその目標値を次のように設定しました。

対応する方針等	評価指標	検証方法	検証時期	現状値 (R6年度)	目標値 (R12年度)
計画全体	真庭市民の1人あたりの活動量(1人あたりの平均トリップ数)	岡山県パーソントリップ調査やそれに代わる活動量の調査(市が実施する住民アンケート調査等)	R12年度	2.5(平日) 2.2(休日) ※R4年時点	3.0(平日)
<方針1> 公共交通ネットワークの最適化	公共交通カバー率	駅・バス停500m及び区域運行の対象地域の人口÷真庭市の総人口で計算	毎年度	96.7%	100%
	市内を運行する公共交通の利用者数	まにわくんとデマンド交通(チョイソコマにわ等)の利用者数	毎年度	128,980人	129,000人(現状維持)
	デマンド交通(新交通システム)における利用率	デマンド交通の実利用者数÷対象地域の人口で計算	毎年度	—	初年度把握し、前年度以上を目標値として設定
<方針2> 公共交通の利用環境整備	公共交通の周知、PR及び情報発信に関する取組の件数	情報発信に関する取組回数の実績を市で把握	毎年度	—	年4回以上(四半期ごとの実施を目標)
	公共交通分担率	岡山県パーソントリップ調査やそれに代わる活動量の調査(市が実施する住民アンケート調査等)	R12年度	2.8%(平日) ※R4年時点	4.0%(平日)
<方針3> 持続可能な公共交通の仕組みづくり	市内公共交通(まにわくん・チョイソコマにわ等のデマンド交通)の収支率・財政支出額	収支率:年間の運行に必要な経費と収入(補助金及び他自治体の負担金を除いた額)により算出 財政支出額:補助金を含めた収支差額を採用	毎年度	収支率 12.8% 市支出額 140,926千円	収支率 13.0% 市支出額 140,000千円(現状維持)
	市内公共交通に従事する交通事業者の運転者数	交通事業者への照会・聞き取り等によって把握	R12年度	71名 ※R7年時点	70名
<方針4> 公共交通に対する意識の醸成	地域住民の公共交通に対する認知度の醸成	住民アンケート調査を実施して検証	R12年度	チョイソコマにわの認知度は 62.5%	70%以上

計画の推進体制

本計画の評価・検証及び事業推進は、市内交通事業者や関係者で構成する「モニタリング・マネジメントチーム(仮称)」で施策の進捗と評価指標を検証し、法定協議会「真庭市地域公共交通会議」で計画の達成状況や今後の取組方針を審議することで進めます。

真庭市公共交通会議

- 本計画の進捗管理、検証結果の報告
- 計画の見直し・変更等の承認
- 公共交通の見直し(路線や区域の新設、減便・廃止等)の承認
- 翌年度以降の取組方針の検討

双方の役割に応じて
計画を推進

モニタリング・マネジメントチーム(仮称)

- 本計画の進捗確認、評価指標の検証
- 公共交通の見直し案や運転者確保策、利用促進策等の検討
- 交通事業者及び関係者同士における連携策の検討
- 地域の交通に関する問題点・課題の共有とその改善策の検討

真庭市地域公共交通計画 概要版

策定年月:令和8(2026)年2月

1. 計画の概要

背景と目的

真庭市では、令和3年に公共交通におけるマスタープランとなる「真庭市地域公共交通計画」を策定し、公共交通の機能向上(路線の再編や車両バリアフリー化など)や利用環境整備(キャッシュレス決済・バスロケーションシステムの導入、待合環境の整備など)といった、計画に基づく取組を推進してきました。さらに、令和5年10月にはオンデマンド乗合タクシー「チョイソコマにわ」を導入するなど、移動の選択肢を高める取り組みも進めています。

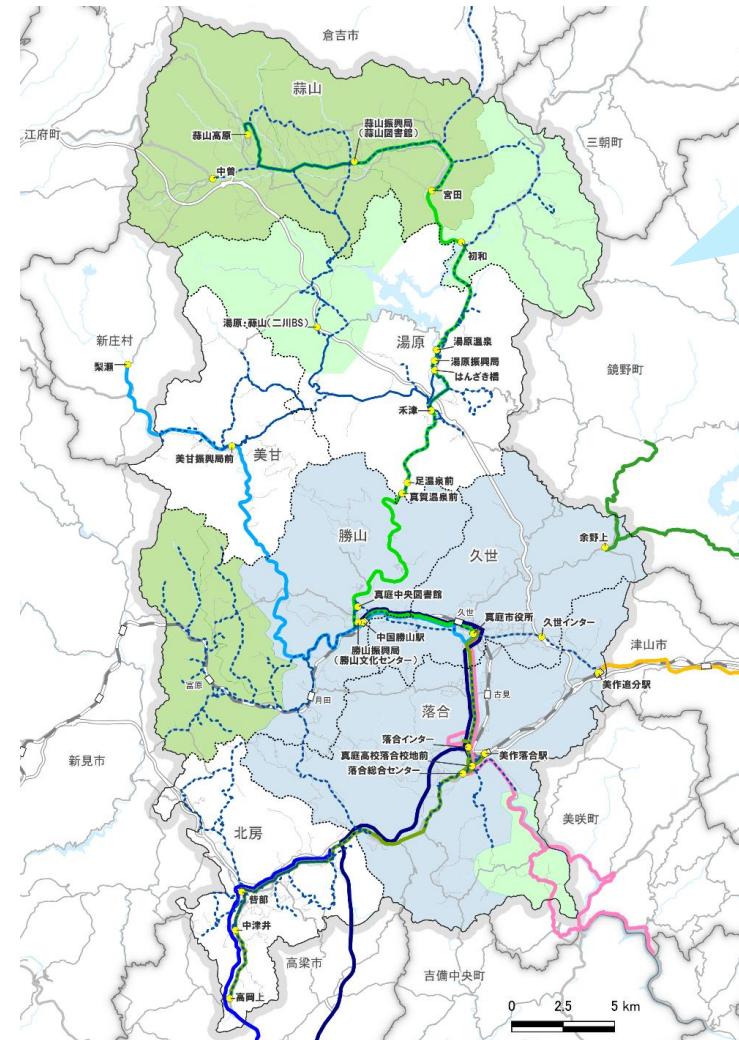
このような状況の中、地域公共交通は大きな転換点を迎えています。高齢化の進展や運転免許証の自主返納が進み、日常生活における地域公共交通の役割はますます重要となる一方、公共交通の利用は減り、乗務員不足や運行経費の増加など、全国でも課題となっている問題が顕在化しており、移動の利便性を確保しつつ、市の財政の健全性にも配慮した持続可能な公共交通体系を実現することが喫緊の課題となっています。

このことから、地域の実情や住民の移動ニーズをしっかりと踏まえ、「真庭市らしい公共交通」を実現するため、新たな地域公共交通の「道しるべ」となる新たな「真庭市地域公共交通計画」を策定しました。

計画の期間

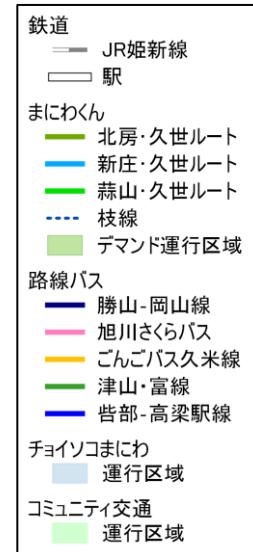
令和8(2026)年度 から 令和12(2030)年度

真庭市の公共交通(概略)



市内の交通ネットワークは、
鉄道、まにわくん(幹線と枝線)、
デマンド交通を中心に、
構成されています

※ 画像は令和7年4月時点の路線図
令和8年1月より北房地域においても
デマンド交通(イコーデ)が運行



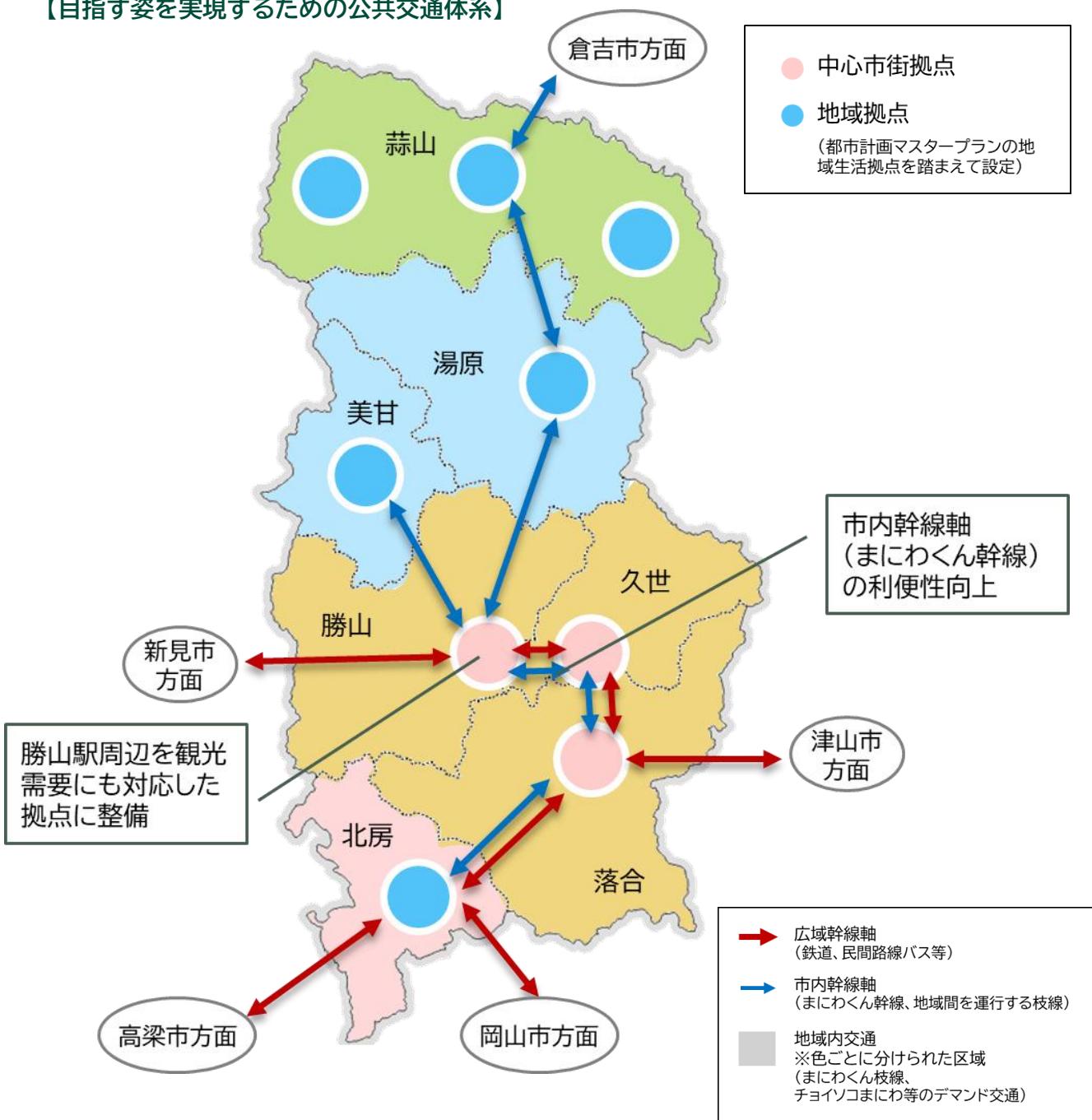
2. 地域公共交通計画の目指す姿

上位計画に示された理念やまちづくりの方向性を踏まえ、「真庭ライフスタイル(多彩な真庭の豊かな生活)の実現」に繋がる本市の地域公共交通の目指す姿(理想像)は、次の5点(①～⑤)が実現されていることとします。

地域公共交通の目指す姿

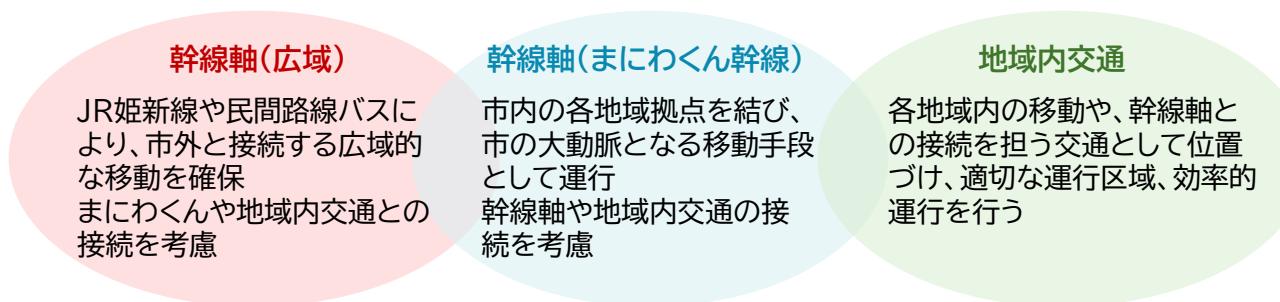
1. 幹線軸(JR姫新線、民間バス、まにわくん幹線)と地域内交通(まにわくん枝線やチョイソコまにわ等のデマンド交通)を組み合わせ、市内の目的地や近隣市町まで移動ができる
2. 日常の様々な移動需要(通学・通勤・通院・買物)に対応する交通手段が確保できている
3. 運転免許返納後(自家用車がなくて)も安心して生活ができる
4. 公共交通を通じて観光客や関係人口との交流・賑わいが生まれる
5. 関係者や地域住民が適切に関わり合い、みんなで公共交通を支えている

【目指す姿を実現するための公共交通体系】



真庭市の目指す交通体系は、次の3つのレイヤー(層)を組み合わせることで、市内外をシームレスに移動できる仕組みを構築するものです。実現には、地域の実情に応じた施策の展開が必要です。

【3つのレイヤー】



【地域別の施策実施方針】

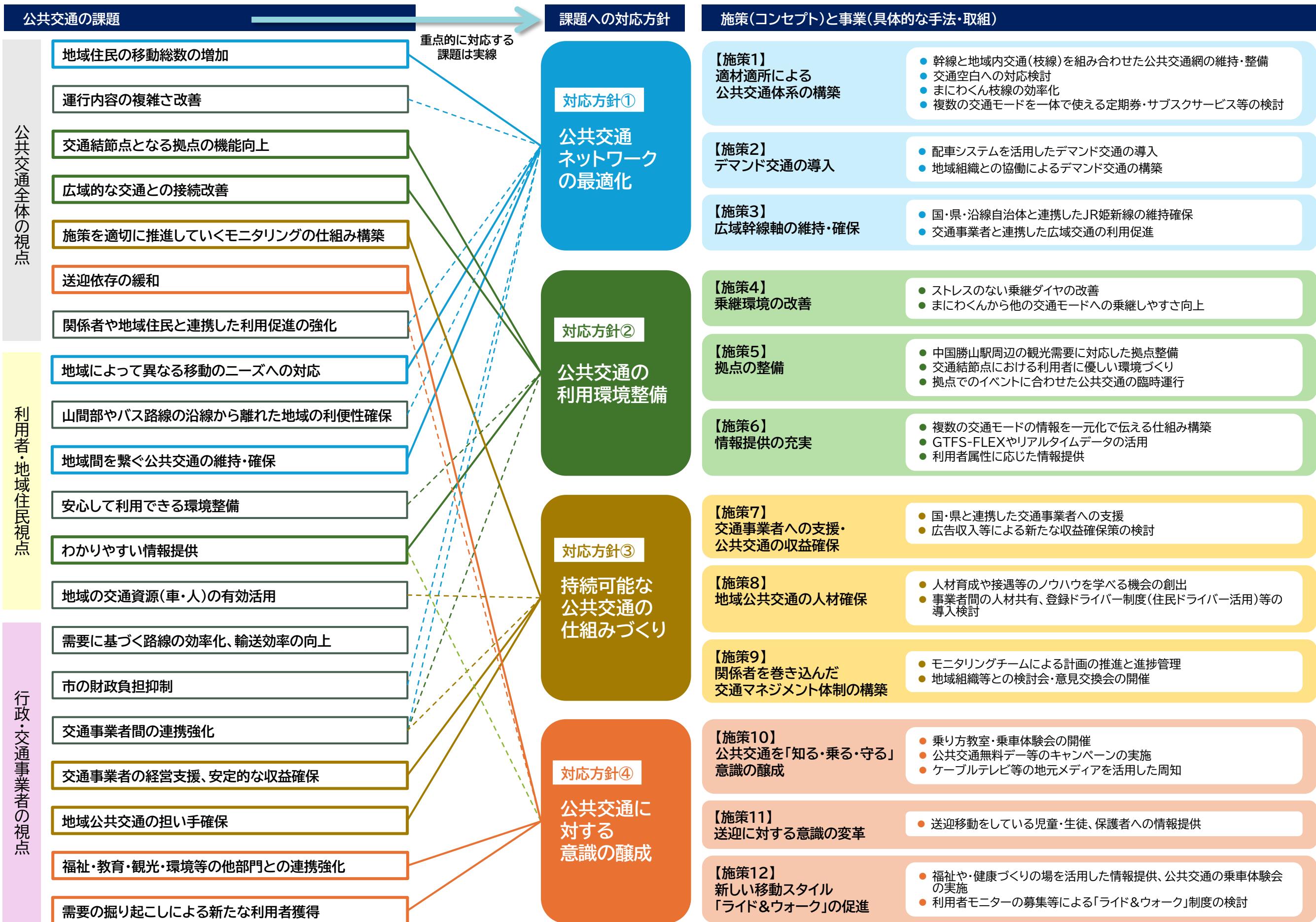
真庭市全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 中心市街拠点・地域拠点での接続改善 ● 広域幹線軸(JR姫新線・民間路線バス)の維持確保 ● 交通結節点(ハブ拠点)の環境整備 ● DXによる予約環境、情報発信の強化 ● タクシー空白時間帯地域への対応として、ライドシェアの仕組み活用も検討
蒜山地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域主体のコミュニティ交通や既存のデマンド交通の活用 ● 必要に応じてAIデマンド交通の導入を検討
湯原・美甘地域	まにわくん枝線からデマンド交通への転換を検討
勝山・久世・落合地域	チョイソコまにわ、地域主体型コミュニティ交通などでカバー
北房地域	まにわくん枝線をデマンド交通に転換

【各交通手段の位置づけと維持確保の方向性】

位置づけ	役割	交通手段	該当する路線・区間
広域幹線軸	隣接及び沿線市町村を結びとともに山陽本線、伯備線、芸備線に接続し、広域交通の要となる	鉄道	JR姫新線
	岡山市、高梁市、津山市、美咲町、鏡野町と真庭市を結び、通勤・通学、通院・買物等での移動を担う	民間路線バス	勝山・岡山線(中鉄北部バス) 皆部・高梁駅線(備北バス) 旭川さくらバス(美咲町) 津山・富線(津山市・鏡野町) こんごバス久米線(津山市)
市内幹線軸	地域の拠点間を結ぶ市の交通の大動脈であり、広域交通と接続する	まにわくん幹線	蒜山・久世ルート 新庄・久世ルート 北房・久世ルート
地域内交通	各地域内において地域の拠点や目的地となる施設等の間を結びとともに、まにわくん幹線に接続する	まにわくん枝線	各地域で運行している15路線
		デマンド型乗合交通	チョイソコまにわ 北房地域デマンド交通イコーデ
その他	上記では対応しきれない個別輸送を担う	タクシー	

3. 目指す姿を実現するための課題への対応方針と施策

「真庭市における地域公共交通の目指す姿」を実現するため、現状診断等から抽出した公共交通の課題とその対応方針、結び付く施策・事業の関係性は次のとおりです。



施策① 適材適所による公共交通体系の構築	
多様な移動ニーズに応え、効率的で持続可能な交通ネットワークを形成する取り組みを推進	
幹線と地域内交通を組み合わせた公共交通網の維持・整備	まにわくん幹線3路線は広域交通の接続に合わせてダイヤ等を調整 まにわくん枝線からデマンド交通移行等、地域の状況に応じた見直しを実施
交通空白(タクシーが配車しにくい地域や時間帯等)の対応検討	夜間にタクシーが不足する時間帯や、営業所から距離が大きく離れて配車が困難な地域に対して、地域住民等が担い手となる移動手段導入を検討
まにわくん枝線の効率化	路線統合やデマンド交通への転換、利用が少ない曜日(土日祝日)や時間帯の運行の効率化を検討
複数の交通モードを一体で使えるフリーパス等の検討	市内公共交通が一体的に利用できる定期券やサブスクリプションサービス、フリーパス等の導入を検討

施策② デマンド交通の導入	
地域の移動ニーズに応え、利便性を向上させる取組としてデマンド交通の導入を推進	
配車システムを活用したデマンド交通の導入	北房地域全域を対象としたデマンド交通(イコーデ)の実証運行を開始 湯原・美甘地域で利用しやすいデマンド交通への導入を検討
地域組織との協働によるデマンド交通の構築	地域組織が運行しているデマンド交通(落合の津田、湯原の二川、蒜山の中和)を地域主体の取組として支援

施策③ 広域幹線軸の維持・確保	
広域交通の利便性を高め、持続可能な交通ネットワークを構築	
国・県・沿線自治体と連携したJR姫新線の維持確保	「岡山県JR在来線利用促進検討協議会姫新線ワーキングチーム」において定期的に協議を行い、共同での利用促進事業に継続して取り組む
交通事業者と連携した広域交通の利用促進	利用促進のためのキャンペーンや関係自治体・交通事業者(民間路線バス事業者等)と連携した利用促進策を検討

施策④ 乗継環境の改善	
広域交通との接続性と待合の環境向上に努め、複数交通モード間のよりスムーズな移動を実現	
ストレスのない乗継ダイヤへの改善	JR西日本と調整協議等を実施し、鉄道ダイヤ改正時にはバスのダイヤも連動して見直す
まにわくん等から他の交通モードへの乗継しやすさ向上	まにわくんとチョイソコまにわの乗継割引や共通で利用できる乗車券(フリーパス等)の導入等を検討

施策⑤ 拠点の整備	
交通結節点の機能向上と安心できる環境づくりを進め、地域の移動拠点としての役割を高める	
中国勝山駅周辺の観光需要に対応した拠点整備	中国勝山駅及び駅周辺を、バス・タクシー乗り場、観光案内、待合スペースを集約した交通結節拠点として位置づけ、必要な整備を検討
交通結節点における空調整備など利用者に優しい環境づくり	地域の主要バス停において、上屋・ベンチの整備、暖房設備の導入、照明設置による夜間の安全性向上など、利用者の快適性を高める環境整備を検討
拠点でのイベントに合わせた公共交通の臨時運行	観光イベントや祭りに合わせたまにわくんの増便や特別ダイヤ等を検討

施策⑥ 情報提供の充実	
わかりやすい情報提供と安心できる環境整備を通じて、誰もが使いやすい公共交通の実現を目指す	
複数の交通モードの情報を一元化で伝える仕組み構築	まにわくん・チョイソコまにわ・JR姫新線・民間路線バスなど、市内すべての公共交通運行情報を統合したウェブサイトや時刻表を整備
GTFS-FLEXやリアルタイムデータの活用	まにわくん枝線やデマンド交通(チョイソコまにわ等)の運行情報を、GTFS-FLEX形式で整備し、Googleマップ等の経路検索サービスに対応
利用者属性に応じた情報提供	高齢者や学生、障がい者、インバウンドや市内に暮らす外国人等の利用者属性に対応した情報発信の取組を推進

施策⑦ 交通事業者への支援・公共交通の収益確保	
市の財政負担を抑制しつつ、交通事業者の収益確保と人材確保を支援	
広告収入等による新たな収益確保策の検討	チョイソコまにわのエリアスポンサー制度継続 時刻表等への地元企業の広告掲載、バス車両のラッピング広告・音声広告等、まにわくんの収益確保策を検討
国・県と連携した交通事業者への支援	本市が実施している二種免許取得費用の助成について、助成額や対象範囲の見直しを行うなど、交通事業者の運転者確保支援を強化

施策⑧ 地域公共交通の人材確保	
乗務員の高齢化や採用難の深刻化への対応と、地域で支える公共交通の実現を目指す	
人材育成や人材募集、接遇のノウハウを学べる機会の創出	市の交通事業者を対象にした人材確保や採用等に関する合同セミナー、接遇等に関する合同研修等を年1回程度の頻度で継続的に開催
交通事業者間の人材共有・登録ドライバー制度等の導入検討	交通事業者間で繁忙期・閑散期に応じた柔軟な人員配置等を協議できる意見交換の場を設置 地域住民が運転者として登録し、交通事業者の管理下でまにわくんやデマンド交通、スクールバス等の運転を担う「登録ドライバー制度」の導入を検討

施策⑨ 関係者を巻き込んだ交通マネジメント体制の構築	
持続可能な交通運営を支えるため、計画の進捗確認と課題の共有、必要な見直しを行う“仕組み”を構築	
モニタリングチームによる計画の進捗状況の検討	地域公共交通会議の下に「モニタリング・マネジメントチーム(仮称)」を設置し、本計画の進捗状況や市内公共交通の利用状況を定期的に検証
地域組織等との検討会・意見交換会の開催	自治会長・民生委員、利用者代表(高齢者・学生・障がい者等)を対象に意見交換会・説明会等を開催

施策⑩ 公共交通を「知る・乗る・守る」意識の醸成	
利用方法を知り、実際に乗り、地域で守る意識を育てることで公共交通の維持確保と利用の促進を図る	
公共交通に触れる機会(利用体験や学習等)の創出	小学校等を対象にしたバス・電車を使った乗り方出前教室の開催 高齢者を対象とした集いの場・サロン等を活用した乗り方教室の開催
交通結節点における空調整備など利用者に優しい環境づくり	市内公共交通(まにわくん・チョイソコまにわ等)が無料で利用できる日(キャンペーン)の検討 外出機会の創出や健康増進イベントと連携した企画の継続実施
ケーブルテレビ等の地元メディアを活用した周知	地元ケーブルテレビや広報まにわ、市公式SNS等を活用した公共交通情報の発信

施策⑪ 送迎に対する意識の変革	
「送迎が当たり前」という意識から、公共交通を移動手段の一つと捉える意識への転換を促す	
送迎移動をしている児童・生徒及びその保護者への情報提供	学校やPTA会合等を通じて、「公共交通利用の選択肢がある」ことを周知し、利用促進を図る

施策⑫ 新しい移動スタイル「ライド&ウォーク」の促進	
利用促進と健康増進を両立した新しい移動習慣を提案	
福祉や健康づくりの場を活用した情報提供、公共交通の乗車体験会の実施	介護予防教室等で、外出機会増加による健康維持効果を訴求し、公共交通利用を促進
利用者モニターの募集等による「ライド&ウォーク」制度の検討	公共交通利用モニターを募集し、利用回数等に応じて「まにわくんポイント」を付与する新たなモニター制度「ライド&ウォーク」を設計

※ 事業名及び事業内容は本編より一部を抜粋して掲載
 ※ 各事業の実施時期(スケジュール)と実施主体は本編に記載